「智泉大徳像」（弘法大師十大弟子像のうち）　金剛峯寺
智泉大徳（789～825）は、弘法大師空海の跡を継ぐ予定であったが、若くして亡くなり、大師をひどく悲しませた。
令和6（2024）年度は智泉大徳の1200年御遠忌に当たる。

霊宝館だより

題字・畠野光義師

霊宝館だより　第144号
令和5年10月9日発行
和歌山県伊都郡高野町高野山306
公益財団法人高野山文化財保存会
高野山霊宝館
電話0736―56―2029
URL https://www.reihokan.or.jp

第144号　目次

秋期企画展のご案内……2～3
収蔵品の紹介113……4
博物館実習の報告……5
特集高野山……6～7
高野山霊宝館からのお知らせ……8

令和５年度 秋期企画展

「弘法大師空海の弟子たち」

令和５年10月14日(土)～
令和６年１月14日(日)

休館日 令和５年12月28日(木)～令和６年１月４日(木)

毎月21日（弘法大師の日）ご来館の方にプレゼント差し上げます。

利用案内

■開館時間
■5月1日～10月31日　8時30分～17時30分
■11月1日～4月30日　8時30分～17時00分
■休館日　年末年始
（展示替えに伴い臨時休館あり）

■拝観料　大人　1300円
高・大学生　800円
小・中学生　600円
高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。
（住所記載の証明書提示要）
■専用駐車場あり

令和五年度 秋期企画展

「弘法大師空海の弟子たち」

令和5年10月14日(土)～令和6年1月14日(日)

前　期　令和5年10月14日(土)～11月26日(日)

後　期　令和5年11月28日(火)～令和6年1月14日(日)

休館日　令和5年12月28日(木)～令和6年1月4日(木)

※関西文化の日に協賛し、11月21日(火)を無料開館日とします。

弘仁七年（八一六）、弘法大師空海が高野山を開き、入定後、その意志を継いだ弟子たちが、高野山の発展、衆生救済に取り組んできました。

本展覧会では、大師の弟子たちのゆかりの文化財と、真言宗の僧侶になるための儀式、伝法灌頂（でんぽうかんじょう）の道具を公開いたします。

主な展示品

■絵画

重文　弘法大師像　龍泉院

実恵像

真雅像

智泉像

真然像

持経上人（定誉）像

（以上、元御影堂安置、弘法大師十大弟子像のうち）

金剛峯寺

両界種子曼荼羅図（本願僧正筆）　円通寺

明算大徳像　龍光院

智泉大徳像（涕の御影）　東南院

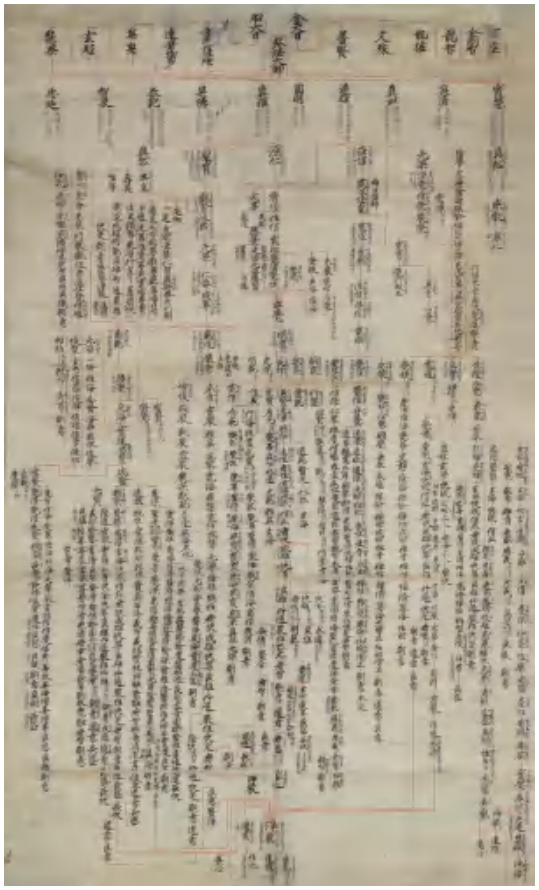
覚海尊師像　浄菩提院

実恵像　金剛峯寺

高野山開創に尽力

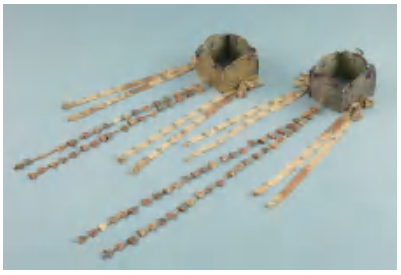
持経上人（定誉）像　金剛峯寺

高野山の再興者



密宗諸流血脈　浄菩提院

大日如来に始まる真言宗の血脈



重文　金宝冠・銀宝冠（灌頂道具類のうち）
龍光院　金宝冠〔前期〕・銀宝冠〔後期〕

重文　団扇（灌頂道具類のうち）
龍光院　〔後期〕

重文　銅梵釈四天王五鈷鈴
（灌頂道具類のうち）　龍光院

重文　瓶（灌頂道具類のうち）
龍光院　〔後期〕

重文　菊枝蒔絵鏡箱（灌頂道具類のうち）
龍光院

重文　明鏡（アーク）
（灌頂道具類のうち）　龍光院

重文　華形大壇（元真然堂安置）　金剛峯寺

次回の展覧会予告

令和５年度冬期平常展
「密教の美術」

令和６年１月20日㈯～４月14日㈰

慈雲尊者修禅像　円通寺
高野山壇上并寺中惣絵図（寛政五年〈一七九三〉）　金剛峯寺

彫刻

弘法大師坐像（萬日大師）　金剛峯寺

書跡

国宝　僧応其仏祖肉舎利奉納状（続宝簡集1）　金剛峯寺［前期］
国宝　東寺長者御教書（宝簡集29）　金剛峯寺［前期］
国宝　興山上人応其掟書（続宝簡集40）　金剛峯寺［後期］
国宝　高野山学侶起請文（又続宝簡集69）　金剛峯寺［後期］
県指定　文禄三年連歌懐紙　安養院［前期］
密宗諸流血脈　浄菩提院
中院流血脈（宥快筆）　宝寿院
智泉大徳縁起　東南院
三派廃止沙汰書　金剛峯寺
明恵上人金剛峯寺巡礼次第　金剛峯寺

工芸

重文　灌頂道具類　龍光院
［一部前後期入替］
重文　磬架　金剛峯寺
重文　華形大壇　金剛峯寺
重文　蝶形磬　親王院［前期］
重文　蓮華形柄香炉　龍光院［後期］
重文　金銅三鈷杵（伝覚鑁上人所持）　宝寿院
重文　銅五鈷鈴（道範上人所持）　正智院
仏具類（伝行勝上人所持）　蓮華定院
紺綾地錦弘法大師像　金剛峯寺
緯錦阿弥陀如来像　金剛峯寺

考古

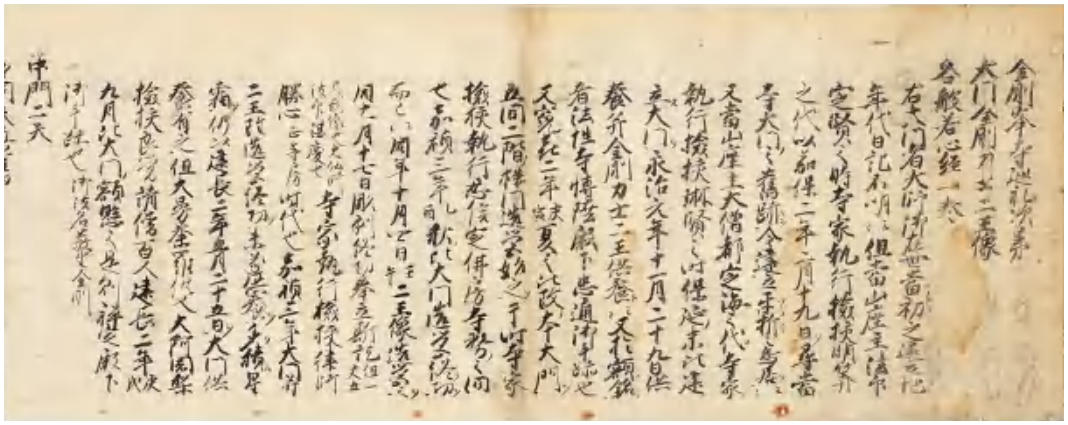
複製　四耳壺（真然大徳蔵骨器）　金剛峯寺

※期間中、一部展示替えを行います。
※文化財の保存上、展示品が変わる場合があります。

収蔵品の紹介 113

明恵上人金剛峯寺巡礼次第 一巻

紙本墨書　鎌倉時代（十三世紀）　金剛峯寺蔵



明恵上人金剛峯寺巡礼次第

本資料を記した明恵上人（一一七三～一二三二）は、紀伊国有田郡石垣庄吉原村（現和歌山県有田郡有田川町歓喜寺中越）出身で、八歳で両親を亡くした後、九歳で高雄山神護寺（京都市右京区）に入り、十六歳で出家。二十三歳からの十年間は、故郷周辺の有田郡白上山付近などで修行し、「国宝　鳥獣人物戯画」で知られる栂尾山高山寺（京都市右京区）を開山し、高雄上人、栂尾上人と呼ばれ、人々から慕われました。

また、華厳宗の僧侶でありながら、仁和寺（京都市右京区）で密教を修め、その他禅宗でも修行し、宗派問わず仏教全般に精通。戒律を重んじ、数多くの書物を著述、多くの弟子を輩出しました。

『高野春秋編年輯録』（日野西眞定）によると、明恵上人は、源　頼朝の三男であった高野山五之室の五坊寂静院の貞暁上人（一一八六～一二三一）とも親交があり、安貞二年（一二二八）、貞暁上人に招かれて一夏を高野山で過ごして、四座講式を修し、伝授しました。そのような縁もあり、高野山五之室には明恵上人の供養塔があります。

明恵上人供養塔（高野山五之室所在）

本資料の内容は、高野山の諸堂を巡拝する順番、諸堂の来歴、安置する仏、唱える経文や真言とその回数を記した次第で、明恵上人の自筆です。

本資料の書かれた十三世紀は、法然上人（一一三三～一二一二）など、他宗派の開祖も高野山を訪れており、そのような僧侶たちが、初めて高野山を訪れても、山内にどのような仏堂に仏尊を祀り、経文や真言を唱えて巡礼すればよいのかを示したものと考えられます。

付随する奉納状によると、本資料は元禄三年（一六九〇）、源龍院の快融によって御影堂文庫に納められ、その後、宝暦三年（一七五三）に記された、御影堂の宝物目録である『御影堂霊宝目録』（又続宝簡集六四所収　金剛峯寺蔵）には、「高野諸伽藍巡礼記　明恵上人筆一箱」と記され、大切に保管されてきたことが分かります。

類似する次第として、高野山に古くから伝わる『両壇繞堂次第』があります。両資料を比較すると、参拝場所の諸堂の名前はほぼ一致しますが、前者は火災などにより焼失し、今日は存在しない仏堂がいくつか記されており、当時の伽藍諸堂の様子が分かるだけでなく、諸堂巡礼の順がわかり、大変貴重な資料と言えます。また、仏尊の数が非常に多く、参拝に要する時間が相当長かったことが伺える点も大変興味深いです。

現在、明恵上人の供養塔は、五之室の金輪公園の西側の丘陵にあります。一般参拝もできますので、明恵上人を偲び、訪ねられてはいかがでしょうか。

（鳥羽　正剛）

博物館実習の報告

この度、平成二十三年度を最後に休止していました博物館実習（大学で博物館学芸員資格を取得するためのカリキュラム）が、令和五年度から再開されました。

本年は、高野山大学の大学生・大学院生各一名を受け入れ、令和五年八月二十二日㈫から二十五日㈮まで四日間の実習を行いました。カリキュラムは、霊宝館での屋内実習に加え、屋外での実習をプログラムしました。

八月二十二日から二十四日までの三日間は、高野山霊宝館において、大森照龍霊宝館長による絵画、書跡、彫刻、工芸品の歴史的特徴、製作上の構造、取り扱い方法、展示方法、信仰背景などについての講義のあと、取り扱い実習、施設見学を行いました。

文化財に関する講義

各日のカリキュラムの詳細として、二十二日の午前はオリエンテーション、平成大宝蔵と展示室（本館・新館）の施設見学、午後は絵画と書跡の講義と取り扱い実習。二十三日の午前は大宝蔵の施設見学、彫刻の講義と取り扱い実習、絵画と書跡の取り扱い復習、午後は工芸（漆工品、木工品）の講義と取り扱い実習、彫刻の講義と調査、梱包実習。

絵画の取り扱い

絵画の展示

書跡の取り扱い

書跡の清掃

二十四日の午前は版木の講義と拓本実習、金工品の講義と取り扱い実習、午後に書跡の清掃を行いました。

八月二十五日は、大阪府河内長野市の高向遺跡発掘調査現場と調査事務所で調査実習（土層観察・分層、出土土器洗浄、注記）を行いました。河内長野市教育委員会と高野山大学は、令和二年度に生涯学習分野での協働事業の連携協定を締結しており、また（公財）大阪府文化財センターが調査協力されていることから、両機関には多大なご協力をいただきました。

この度の博物館実習では、文化財は博物館に展示するまで、屋内や屋外を問わず存在し、調査、研究を経て資料化され、ようやく我々が目にすることができることを実習生に学んでいただきました。この経験が学芸員資格修得の礎となれば幸いです。

（鳥羽　正剛）

彫刻の取り扱い

特集高野山

高野山町石の調査（1）

滋賀県立大学教授　佐藤亜聖
兵庫県立大学客員教授　先山徹

寛治二年（一〇八八）二月、白河上皇は、霊地高野山への登拝を思い立ちます。『寛治二年白河上皇高野御幸記』には、この時、高野山登拝道に「卒塔婆札」が立っていたことが記されています。この卒塔婆札は木製塔婆と思われ、五輪をあらわすとされていますが、いわゆる五輪塔の形であったかどうかはよくわかりません。

それから一七七年後の文永二年（一二六五）、高野山遍照光院の覚敷は、参詣道の木製塔婆を石造化することを決意し、その後、二十年の月日をかけて弘安八年（一二八五）に無事完成を迎えます。この際記された『高野山町石卒塔婆供養願文』には、後嵯峨天皇、執権北条貞時、連署北条業時、安達泰盛など錚々たる面々が、その造営に尽力したことが記されています。なかでも安達泰盛は中心的な役割を担ったとされ、泰盛を願主とする塔婆は町石全体に複数配されているほか、お大師様の足下にあたる御所芝には御嵯峨天皇一周忌供養の町石形塔婆を寄進しています。

現在、大門から慈尊院への町石道に、里石を含む一八四基、奥之院には、後嵯峨天皇供養塔を含む三七基、合計二二一基の五輪塔形卒塔婆が残存しています。もちろん全てが当時のものではなく、戦国時代、江戸時代、大正時代、昭和時代にそれぞれ修理を行っており、篤い信仰にまもられ維持管理が続けられてきたことがわかります。

この高野山町石についてはすでに多くの研究があり、その全体像はほぼ把握されていますが、いったいどこの石が使われ、だれが作ったのか、という初歩的な疑問にはなかなか答えが出ていません。『高野山町石卒塔婆供養願文』には「公家は数輩の功人を賜り、武家は巨千の助成あり」と記されており、安達氏や北条氏をはじめとした武家が資金提供をし、「功人」（石工）については公家が数名を用意したようですが、実際にはどのような方法で作られたのでしょうか。

この問題を解決すべく、私たちは高野山町石ほぼ全点の石材同定と、鎌倉時代の水輪以上が残っているものの実測調査を行いました。コロナ禍もあり、調査は足掛け四年かかりましたが、多くの方々のご協力をいただき、それぞれの形の特徴と石材を調べることができました。

高野山町石の石材は、天正十八年（一五九〇）に造られた奥之院三十三町石（砂岩製）以外はすべて花崗岩でできています。花崗岩は斜長石、アルカリ長石、石英などの無色鉱物と、角閃石、雲母などの有色鉱物で構成されていますが、そのほか微量の磁鉄鉱やチタン鉄鉱などの磁性鉱物が含まれることがあります。磁性鉱物は弱い磁気を与えると磁化するため、その程度（帯磁率）を測ることで、その含有率を知ることができます。この帯磁率や花崗岩の中に含まれる有色鉱物の量は地域によって異なるので、それによって石材産地をある程度推定することができます。この方法で高野山町石の花崗岩を分類したところ、A類～G類の七種類の石が使われていることがわかりました。興味深いのは、鎌倉時代・江戸時代・大正時代で石材が異なっていることで、時代によって利用する石材の場所が違っていたようです。さらに、大正時代の修理は、岡山に本部を置く宗教団体、福田海が行いましたが、この時の石材は、ほぼすべてが岡山県で産出する、通称「万成石」と呼ばれる花崗岩に類似するものでした。

鎌倉時代の町石に使用された石材は四種類が確認されましたが、このうち最も特徴的なのはA類と分類したもので、アルカリ長石がピンクに

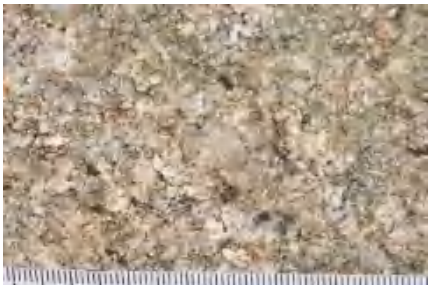


図１　石材Ａ類拡大写真
（六甲花崗岩　148町石）

発色し有色鉱物の少ないものです（図１）。この特徴を持つ石材は六甲山地で採石される、いわゆる「本御影石」に類似しています。六甲山近隣の花崗岩は中世を通じて大量に利用されますが、高野山町石がその最も古い事例であり、町石の造営を契機として採石が始まったのかもしれません。これ以外の三種類については採石場所がよくわかりませんが、奈良・大阪を中心とした領家帯と呼ばれる地域に分布する岩石に類似しているようで（図２）、いずれ採石地を明らかにしたいと考えています。

以上のように、石材については、近畿地方およびその周辺も含めた比較的広い範囲から集められたものであることがわかりましたが、製作した工人はどうでしょうか。そこで、実測図をもとに、特に製作者のクセが出やすい空風輪の形を分類してみたところ、空輪が大きく丸みを帯び、くびれが深く切れ込むもの（Ａ群）と、空輪の上半が広く平らなもの、もしくは抉りの浅いもの（Ｂ群）に分かれました（図３）。これらの特徴はＡ群が大和の五輪塔、Ｂ群が京都・近江の五輪塔の特徴によく似ています。公家が用意したという工人集団は、東大寺や興福寺といった南都の寺社で活躍していた大和の石工集団と、都の周辺を活動拠点としていた京都・近江の石工たちであったと考えられます。

さて、ここで高野山町石の造営方法についても考えてみます。図４は石材分類のうち、一定の数量がある石材Ａ・Ｂ・Ｃ類と、町石空風輪の形から見た分類の関係をグラフにしたものです。これを見るとすべての石材に様々な空風輪分類が存在しており、石材と石工集団がかならずしも対応していないことがわかります。これは採石場で五輪塔の形が刻まれ、完成品が高野山に納品されたのではなく、各地の採石場で一定の大きさに切られた素材が高野山近辺に集められ、そこで五輪塔形が刻まれたことを示しています。各地で定形石材を次々と切り出し、水運、陸運で山下に続々と運び込み、周辺にあった工房で一斉に五輪塔形を刻む様子は、さながら近畿一円に張り巡らされた巨大なベルトコンベアーを見るようです。公武が一体となって取り組んだ、このプロジェクトがいかに巨大なものであったかを知ることができます。

高野山町石は、いまも町石道をゆく登拝者を見守り続けています。町石に刻まれた諸仏に手を合わせるとき、こうした難事業を見事に完遂した、多くの名もなき人々にも想いを寄せていただきたいと思います。

図２　近畿地方の地質

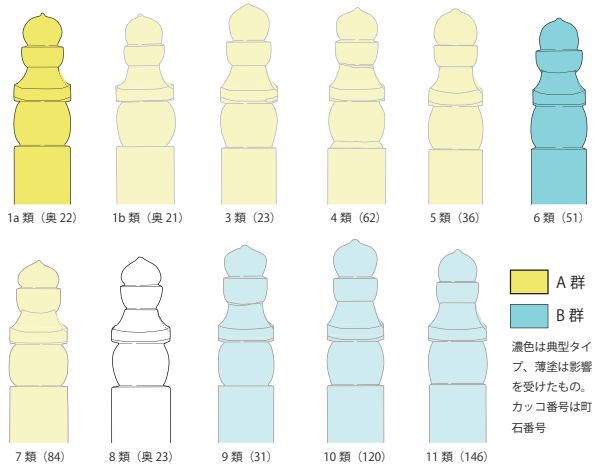


図３　高野山町石の形態分類

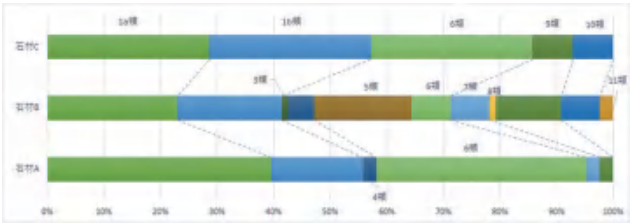


図４　石材と型式の関係

高野山霊宝館からのお知らせ

◎ミュージアム法話　開催

高野山本山布教師による「ミュージアム法話」（お坊さんによる法話と展示解説）を、左記のとおり開催いたしました。

8月5日㈯　講師　富田向真師
9月2日㈯　講師　浅田慈照師
10月7日㈯　講師　山本宝雄師

ミュージアム法話開催風景（富田向真師）

今後の開催予定
11月11日㈯　講師　村上公教師
午後1時より約45分

◎ミュージアムトーク　開催

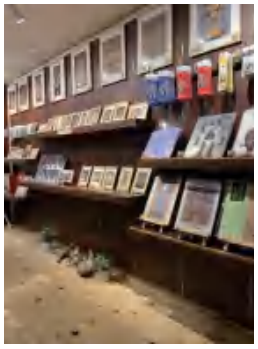
霊宝館職員によるミュージアムトークを開催いたしました。
7月22日㈯、9月16日㈯

◎高野山霊宝館公式ユーチューブ

高野山霊宝館公式ユーチューブに、霊宝館長が展示解説を行う動画がアップされました。皆さま、チャンネル登録（チャンネル名「高野山霊宝館」）して、霊宝館収蔵の文化財の解説をお楽しみください。

・展示解説『執金剛神立像・深沙大将立像』　金剛峯寺

◎ミュージアムショップ リニューアルオープン!!

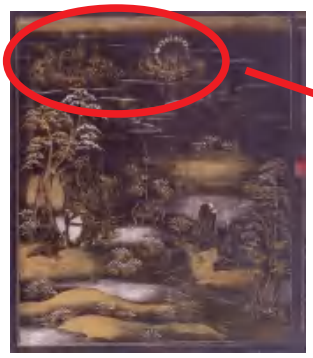


令和5年7月1日㈯より、高野山霊宝館のミュージアムショップがリニューアルいたしました。落ち着いた雰囲気の中で、より多くのお客様にご覧いただければと思います。

◎霊宝館オリジナル新商品登場!!

今回、霊宝館に収蔵している文化財の「国宝 紺紙金銀字一切経（中尊寺経）」に描かれている風神・雷神をモデルにした「オリジナルふせん　風神・雷神」が新商品として登場いたしました。使い易さも重視したポップで可愛いらしいふせんになっております。

風神・雷神をふせんにしました!!


国宝 紺紙金銀字一切経（中尊寺経）
金剛峯寺

「オリジナルふせん　風神・雷神」￥350

また、従来から販売していた塗香カードに「ピンク色」が追加されました。ぜひ、旅の記念にお買い求めください。

塗香カード　￥500

◎友の会文化財講座

11月25日㈯　午後1時30分より
「～はじめての掛け軸・巻物～」
詳細はホームページをご覧ください。

◎記事の訂正

令和5年7月9日発行の「霊宝館だより」143号に誤記がございました。
左記のとおり、訂正させていただきます。

7頁一段目5、6行
誤（一六六四～一九九四）
正（一六四四～一六九四）

お問い合せ先　高野山霊宝館　TEL 0736―56―2029㈹